

県指定重要文化財<絵画>

けんぼんちやくしよくふどうみょうおうがぞう
絹本着色不動明王画像

指定日 昭和56年3月30日

所在地 菊池市巨 東福寺



不動明王は五大明王の中心的存在であって大日如来の使者となり、悪を断じ、善を修し、真言行者を守護する役割をになっている。

不動信仰は弘法大師以来、平安期を通じて密教の盛行とともに広まり、今日でもその守護的性格から多くの庶民の信仰を集めている。

明王は一面二臂で、^{しやけい}莎髻とよぶ花形の髻か蓮華を頭にいただき、弁髪を左肩にたれ、猛炎を背負い、忿怒の形相をして、右手に宝剣左手に索条を持ち、磐石座に座る。この明王も基本的に同じ体型。身体は青色で彩られ、台座の下には波が描かれている。火炎は向かって左から右になびき、桃色味を帯びた朱色が柔らかく重なり合っ
て身体の青とよく調和している。幅107.4cm、高さ294cmの大幅もの。

室町前期の作と思われるが、その描法や構図は平安末期の託磨派の手法を思わせる仏画として注目される。